

【中学校の部】 優秀賞

私が続けてきたこと

大分市立植田中学校 3年

村上 由花



私が続けてきたこと。それは人と接するときには必ず笑顔でいることとクラスに一人ぼっちになる人を作らないことです。笑顔でいること、クラスに一人ぼっちになる人をつくらないこと、どちらも簡単だろうと思っている人もいるかもしれません。しかし、どちらも一時的にはできていても、長く続けるのは難しいことです。

私の名前の由来は「花のように、笑顔で周りの人を明るくできる子になってほしい」という両親の思いからです。これは母から聞いた話なのですが、私は小さい時からいつもにこにこ笑っていて悲しい顔をするときは、転んだときか両親に怒られたときぐらいだったそうです。そんなことがあってか、今では、無意識に笑っているときが多くなりました。「無意識に笑う」というのは人と話しているときや挨拶をしたときなどに自然と笑顔になるということです。だから、笑顔を意識して続けているというより、笑顔は私にとって習慣になっていると思います。

私は人と接するとき笑顔でいることが大切だと思うときに2つあります。

1つ目は、挨拶をするときです。朝、学校に行くときたくさんの方や友達、先生方とすれちがいます。そのとき、ただ「おはようございます。」というのではなく、笑顔をプラスすることで、相手に笑顔が伝わり、すがすがしい気持ちで1日をスタートさせることができます。逆に、笑顔をプラスせずに挨拶をすると、挨拶という言葉をかかわすことはできますが、相手に「この人怒っているのかな」「挨拶しないほうがよかったかな」と不安や後悔などのどんよりした気持ちが伝わってしまうと思います。

2つ目は、普段の会話です。学校や友達と遊びに行くときなどで身近な人たちと会話をするところがあると思います。普段の会話の中で、友達の話を笑顔で聞いたり、笑顔で共感したりすることでお互いが楽しい気持ちになれるし、社会に出たときにもいつも笑顔で対応ができます。もちろん、友達から相談を受けた時など、笑顔で話したらまずいなと思う時は真剣に話を聞きます。

自分が笑顔になると周りの人に笑顔が伝わり、笑顔の輪が広がっていきます。時と場合によっては笑顔になれないときもあります。笑顔を自分のパートナーとしてこれから上手に使っていききたいと思います。

私が続けてきたことのもう一つは、一人ぼっちになる人をつくらないことです。私がこれを続けようと思ったきっかけは、小学校のときのある遠足で、一人ぼっちでお弁当を食べている子を見たことです。小学生のときの私はいじめというものを知らなかったので、すぐにその子のところまでいって一緒にお弁当を食べました。食べ終わってバスに戻ろうとしたとき、最初に一緒に食べていた友達から「なんであの子と食べたの。」と言われ、それから友達が私からはなれていきました。このときはじめていじめというものを知りました

それから、また友達が増えて今は、たくさんの友達に支えられています。しかし、あの頃の記憶はまだ残っており、一人でいる友達には必ず声をかけるようにしています。私もいじめられた体験があるからこそ、あの時のような苦しい気持ちをつくらないように、これから頑張っていきます。

笑顔で人と接すること、一人ぼっちをつくらないこと、始めに書いたように長く続けるのは難しいことです。しかしこの2つを私が続けることで誰かを元気づけたり、笑顔にしたりできると思うので、これからも続けていきたいと思っています。